



南舞岡小だより

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

猛暑の夏を終えて

校長 平石 英一

34日間の夏休みが終わって、子どもたちの明るい声が校内に響きわたり、南舞岡小学校にも学校らしい活気が戻ってきました。夏休み中、子どもに関わる痛ましい事故の情報が入るたびに、心配をしておりましたが、みんなで元気に前期後半を迎えることができたことを嬉しく思っております。

さて、令和年度最初の大会となった「第101回全国高等学校野球選手権大会」。今年も、多くの素晴らしい試合が展開されました。そして、球児たちの感動的なシーンもたくさん目の当たりにしました。攻撃側の選手が、けいれんを起こした相手ピッチャーに内服薬や水分を手渡す、自分のよけ方が悪かったからとデッドボールの判定を辞退する…。数々のフェアプレーに触れることで、改めて自分自身の生き方や心のあり様を見つめ直すと、忸怩たる思いを禁じ得ませんでした。余談になりますが、私の母校が今夏の大会で決勝に進みました。矢も楯もたまらず、決勝戦の日は甲子園球場に駆け付け、外野席から、直向きに、全力でプレーをする後輩たちに声援を送りました。残念ながら悲願達成とはいきませんでした。銀メダルを首にかけて、開会式と同じように腕を大きく振り、堂々と胸を張って行進する姿に、母校愛をまた深めることができました。

ところで、甲子園球場の観客席にいるとき、「去年も暑かったけど、今年も応援はキツイなあ。」「以前は、ここまで暑くなかったんだけどなあ。」「こんなに猛暑が続くことは、昔はありませんでしたからね。」という観客の方の会話を何度も耳にしました。事実、水分補給の時間を今大会から設けたほどです。

今の夏は、本当にそれほど昔よりも暑いのでしょうか。

横浜 日平均気温の月平均値(℃) (8月・気象庁ホームページより抜粋)

年	1919	1929	1939	1949	1959	1969	1979	1989	1999	2009	2019
気温	25.6	26.4	25.3	26.0	26.1	26.5	26.6	26.4	27.8	26.1	28.7

ここ100年間の記録を10年区切りで抜粋し、表にしてみました。確かに、1919年と2019年では、8月の平均気温(ここでは1日の平均気温をもとにした8月全体の平均気温とします)が3.1℃上昇しています。今年の8月の方が、はるかに気温が高いと言えます。しかし、20年前の1999年のように、平均気温が28℃に近い年もあれば、10年前の2009年よりも、90年前の1929年の方が多少高い年もあります。全体的に捉えてみると、あまり気温の上昇傾向が把握できないのは、10年毎の区切りでの分析に原因があります。

では、10年間の気温を、100年前、50年前、10年前として厚みをもったデータで推移をみてみましょう。

年	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	平均
気温	24.5	26.2	25.8	24.2	26.6	26.3	25.3	25.4	26.8	25.6	25.67

年	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	平均
気温	26.0	26.4	27.4	25.9	27.3	26.5	26.3	27.2	26.2	26.5	26.57

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均
気温	28.6	27.1	28.1	28.4	26.8	26.8	27.4	26.6	28.1	28.7	27.66

いかがでしょうか。平均値の平均という結果ですが、約1℃ずつ上昇していることが捉えられます。

1960年代から70年代の我が国は、高度経済成長期の真っ只中でした。電力需要増に伴って二酸化炭素排出量が増加し、やがて地球温暖化につながったという捉え方があります。また昨年8月には世界気象機関(WMO)より、「一連の異常気象は温暖化ガスの増加による長期的な地球温暖化の傾向と関係している」との発表がありました。「地球の肺」と言われるブラジルの森林火災も鎮火する気配がありません。

長期にわたって変化した環境を変えるためには、同等、いえそれ以上の長期的な取組が重要です。国を超えた地球規模の取組と同時に、私たち一人ひとりが切実感をもって取り組むことが必要です。本当に今年も暑い夏でした。子どもたちが、体で感じ取った経験をきっかけに、環境への理解を深め、自分自身にかかわる課題として、今できることを考え実践できるように、私たち大人も考えていく必要があります。